

# 「書けること」を駆使して伝えたい思いを 表現する生徒の育成

—— 3-STEP Writingの英作文指導とピア・ラーニングの導入を通して ——

長期研修員 坂本 亜以子

## 《研究の概要》

本研究は中学校外国語科の「書くこと」の領域において、既習表現や「書くこと」の言語活動における学習経験を駆使して自分の伝えたい思いを表現する生徒の育成を目指し、英作文完成までの学習過程を三つのSTEPに細分化、段階化して指導することの有効性を明らかにしたものである。学習過程を細分化することで各STEPの達成目標を絞り込むことができ、より明確な学習課題を生徒と共有できる。また、それらのSTEPを段階化し、単元計画に3-STEPとして位置付けることで、生徒は学習の見通しをもって書く活動に取り組むことができる。さらに各STEPにおいて、学習者同士が協力して学び合うピア・ラーニングを取り入れることで、生徒一人一人が伝えたい思いをもち、既習表現や「書くこと」の言語活動における学習経験を駆使して自分の思いを書いて伝えることができることを明らかにする。

**キーワード** 【英語—中 書くこと スモールステップの英作文指導 協働学習】

群馬県総合教育センター

分類記号：G09-02 令和5年度 282集

## I 主題設定の理由

「自分の言いたいことを英文にする力を伸ばしたい」「何を伝えればよいのか分からなかった」これらの言葉が、「書くこと」の言語活動を終えた後に中学3年生から挙がった。

令和5年度全国学力学習状況調査における「書くこと」の平均正答率は24.1%、「話すこと」は12.4%であり、どちらの領域においても自分の考えとその理由を答える問題の正答率が特に低かった。文部科学省国立教育政策研究所の報告書では、自分の考えとその理由を書いたり話したりすることや、事実や考えなどを整理し、まとまりのある文章を書くことに課題があると報告されている。質問紙調査によると、「(伝えたい)内容は思い浮かんだが、その内容を表現する英語が思い浮かばなかった」と回答した生徒が「書くこと」では61.1%、「話すこと」では39.6%でそれぞれ最も多かった(図1、図2)。この結果から、習得した知識及び技能を自分の伝えたい思いと結び付けて活用することに課題があることが分かる。さらに、「話すこと」では「聞いたことは理解したが、話す内容が思い浮かばなかった」と回答した生徒が37.6%おり、コミュニケーションにおける目的や場面、状況等を把握して、それらに応じて適切に対応することに課題があることが分かる。これらの課題を生徒自身も感じていることが、冒頭に挙げた生徒の言葉に表れている。このような生徒たちが「自分の言いたいことを、学習した英語で表現できた」「自分が相手に何を伝えたいのかははっきりした」「自分の思いが相手に伝わるように内容を工夫して書けた」と言えるようになるためには、自分の言語面の課題を可視化して見直したり、内容面で他者から助言をもらって修正したりすることを容易に行うことができる「書くこと」の領域で言語活動を行うことが適していると考えられる。

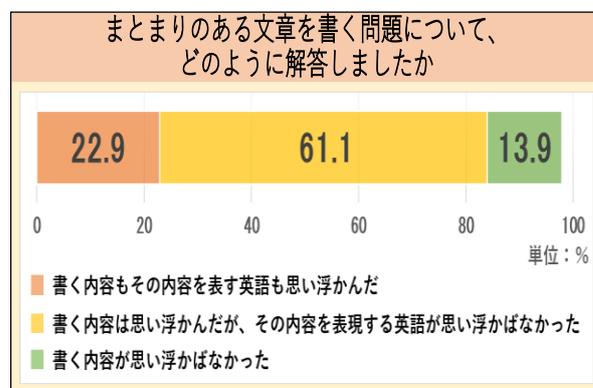


図1 質問紙調査「書くこと」

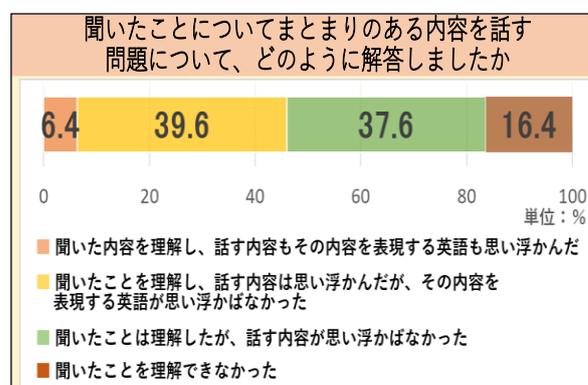


図2 質問紙調査「話すこと」

「自分の思いが相手に伝わるように内容を工夫して書けた」と言えるようになるためには、自分の言語面の課題を可視化して見直したり、内容面で他者から助言をもらって修正したりすることを容易に行うことができる「書くこと」の領域で言語活動を行うことが適していると考えられる。

現在、国が育成を目指すグローバル人材の基盤となるのが語学力とコミュニケーション能力である。文部科学省は、求められる英語力の例として「臆せず積極的にコミュニケーションを図ろうとする態度」と「相手の意図や考えを的確に理解し、論理的に説明したり、反論・説得したりできる能力」を挙げている。その育成のために、高等学校外国語科では「話すこと」「書くこと」に重点を置いた発信力の強化を図るための選択科目が新設された。また、中学校外国語科では、他者とのコミュニケーションの基盤を形成する観点を重視し、言語活動を通して資質・能力を育成することを目指して学習指導要領の改訂が図られた。本県では、中学校の全学年平均80.2%で生徒が授業時間の半分以上で言語活動を行っており、指導の改善が進んでいる。しかしパフォーマンステストの実施状況は、令和3年度のスピーキングは目標値の4回を上回る4.2回に対して、ライティングは目標値3回を下回る2.4回であり、「書くこと」の指導と評価が不足している実態がある。「書くこと」の言語活動では、目的や場面、状況等に応じた内容や表現の適切さを判断する規準を明確に示すことが難しい。そのため指導者と生徒にとって、何をどのように書けるようになればよいのかという見通しをもって学習を進めていくことに課題がある。また、読み手を意識して内容や表現を再構築する過程に十分な時間をかけることができず、相手意識をもって書くための指導が不足している。これらの課題を解決するために、生徒が見通しと相手意識をもって学習を進められる指導の工夫が求められる。

以上のことから、中学校外国語科「書くこと」の領域において、既習表現や「書くこと」の言語活動における学習経験を「書けること」として駆使して自分の伝えたい思いを表現できるようにするため

の指導方法の工夫を、実践を通して生徒の変容を基に検証していくことを目指し、本研究の主題とした。

## II 研究のねらい

中学校外国語科の「書くこと」の領域において、伝えようとしている内容を、既習表現や「書くこと」の言語活動における学習経験を駆使して表現できる生徒を育成するために、英作文完成までの学習過程を細分化、段階化し、そこにピア・ラーニングによる学習活動を取り入れて指導することの有効性を明らかにする。

## III 研究仮説（研究の見通し）

- 1 英作文完成までの学習過程を三つの STEP に細分化し、さらに 3 として STEP 段階化することによって各 STEP における達成目標を絞ることができ、より明確な学習課題を生徒と共有することができる。そのため、生徒は学習の見通しをもって書く活動に取り組むことができるだろう。
- 2 各 STEP にピア・ラーニングによって協働的に学ぶ場を設定することで、生徒は相手意識をもつてより適切な内容と表現で自分の伝えたい思いを書くことができるだろう。

## IV 研究の内容

### 1 基本的な考え方

#### (1) 「『書けること』を駆使して」とは

「書けること」とは、既習表現や「書くこと」の言語活動における学習経験を指す。「書くこと」の言語活動における学習経験とは、読み手にとって分かりやすくなるように伝えたい内容を検討し直したり、構成を工夫したりするなど、相手意識をもって英語で書いて表現してきた経験と定義する。それを駆使するとは、自分なりに英語で書いて構成した文章を「書くこと」の言語活動における学習経験に基づいて検討し、内容や表現を再構築することである。

#### (2) 「3-STEP Writing」とは

「書くこと」における学習過程を三つの STEP に細分化、段階化することによって各 STEP の達成目標を絞り込んで指導すること。その達成目標を学習課題として生徒に提示することで、生徒が学習の見通しをもって書く活動に取り組むことができるようにすることを目指す。3-STEP Writing は STEP 1 課題の認識、STEP 2 文字化、STEP 3 再構築で構成しており、各 STEP の概要は次ページの 2 (1) に示す。

#### (3) ピア・ラーニングとは

教室内にいる対等な仲間（ピア、peer）と共に、互いに協力しながら対話を通して課題を遂行する学習方法である（池田、館岡 2022）。望月<sup>6)</sup>によると、学習者同士の推敲活動は、教師が添削するときよりも読み手の立場や視点から作文内容に注意を払うようになるので、効果的な推敲が期待できる。本研究では、読み手に伝えることの大切さを実感させて生徒の相手意識を高めることを目指して、ピア・ラーニングを 3-STEP Writing の各 STEP に取り入れる。各 STEP でのピア・ラーニングの概要は、次ページの 2 (2) に示す。

#### (4) 「表現の穴」とは

伝えたい内容を英語で表現してみることによって、言いたいけれど自分では英語で表現できない内容があることに気付くことができる。この「言いたいけれど自分では英語で表現できない内容」が表現の穴である。表現の穴に気付くことで、「英語でどのように表現するのか知りたい」という言語面の学習課題をもつことができる。

## 2 手立ての説明

### (1) 3-STEP Writing の英作文指導

#### ① STEP 1 課題の認識

このSTEPの達成目標は、生徒それぞれが自分の表現の穴（言語面における学習課題）を認識し、単元導入の試しの活動を通して感じた学習課題や見通しを、より明確にすることである。

##### 1-1 伝えたい思いを広げる・深める

コミュニケーションを行う目的や場面、状況等を共有した上で、生徒それぞれが伝えたい内容をデジタルワークシート上の付箋に記入する学習活動を行う。その後、記入した内容をもう一度見直して、読み手にとって分かりやすい内容であるか、どのような情報や内容が更に必要かなどについて検討させて、デジタルワークシート上に付箋を追加できるようにする。この活動で生徒は、自分の思いや考えを相手により適切に伝えるための内容面の学習の見通しをもつことができると考える。

##### 1-2 表現の穴の可視化

デジタルワークシート上の付箋に書いた内容を即興的に英語で表現することによって、言いたいけれど自分では英語で表現できない付箋（表現の穴）があることに気付かせる。それを可視化できるように、付箋の色を変えて学習課題として認識させ、言語面の学習の見通しをもつことができるようにする。

#### ② STEP 2 文字化

このSTEPの達成目標は、STEP 1 で気付いた表現の穴を、「書けること」を駆使して英語で書いて表現（文字化）することである。

表現の穴は日本語自体が曖昧な場合や一文が長くて複雑な場合がある。そのため、より具体的な内容にしたり、一文を二文に分けて短くしたりすることで、既習表現に結び付けて文字化できるようにする。また、個人が習得している知識のみで文字化することに難しさを感じる表現の穴については、少人数班を編成して生徒が互いの知識を補い合うことによって文字化できると考える。

#### ③ STEP 3 再構築

このSTEPの達成目標は、内容構成を工夫したり、つなぎ言葉を効果的に使ったりしながら読み手にとって分かりやすい文章にすることである。

##### 3-1 伝える順序の再考

デジタルワークシート上の付箋を並べ替えて段落構成を考え、その後、読み手にとって分かりやすい内容構成になるように伝える順序を再考する学習活動を行う。段落構成は、「結論(Point)」「理由(Reason)」「具体例(Example)」「結論(Point)」の流れで情報を伝えるPREP法や、「序論」「本論」「結論」で文章を構成する3段落構成などを言語活動の目的によって示し、生徒が「書くこと」の言語活動における学習経験に基づいて事実や自分の考え、気持ちなどを整理してまとまりのある構成にできるようにする。

##### 3-2 つなぎ言葉の活用

文の順番が決まったら、文と文の関係が読み手にとって明確になるように、提示されたつなぎ言葉を活用してまとまりのある文章を完成させる。生徒の学習段階やコミュニケーションを行う目的や場面、状況等に応じて既習のつなぎ言葉から教師が提示したリストの中から、「書くこと」の言語活動における学習経験に基づいて生徒が選択できるようにする。

### (2) ピア・ラーニングの導入

読み手に伝えることの大切さを実感させて生徒の相手意識を高めるために、3-STEP Writingの各STEPに取り入れる。本研究では三人組を基本とした班を編成して、友達の見意見を参考にしたり、読み手の視点から助言し合ったりできるようにする。各STEPでのピア・ラーニングは以下のとおりである。



## V 研究の計画と方法

### 1 授業実践の概要

本研究における手立ての有効性を検証するために、協力校において、令和5年10月に授業実践を行った。概要は以下のとおりである。

対象	研究協力校 中学校第3学年 60名	
実践期間	令和5年10月18日～11月8日 8時間	
単元名	PROGRAM 6 The Great Pacific Garbage Patch	
単元の目標	勉強を頑張る目的をマラウイ共和国の学生と共有できるように、事実や自分の考え、気持ちなどを整理し、簡単な語句や文を用いてまとまりのある内容で手紙を書くことができるようにする。	
評価規準	知識・技能	<ul style="list-style-type: none"> <li>・関係代名詞（目的格 which, that）やその省略を用いた文の構造や働きを理解している。</li> <li>・関係代名詞（目的格 which, that）やその省略を用いた文の構造や働きの理解を基に、身の回りのものについて説明する技能を身に付けている。</li> </ul>
	思考・判断・表現	<ul style="list-style-type: none"> <li>・勉強を頑張る目的をマラウイ共和国の学生と共有できるように、事実や自分の考え、気持ちなどを整理し、簡単な語句や文を用いてまとまりのある内容で手紙を書いている。</li> </ul>
	主体的に学習に取り組む態度	<ul style="list-style-type: none"> <li>・勉強を頑張る目的をマラウイ共和国の学生と共有できるように、事実や自分の考え、気持ちなどを整理し、簡単な語句や文を用いてまとまりのある内容で手紙を書こうとしている。</li> </ul>

### 2 抽出生徒

抽出生徒Aは、自分の思いや考えを伝えることに意欲的であり、「書くこと」の言語活動における学習経験を駆使して内容を工夫することができる。しかし、既習表現の定着が不足していることから、言語面に課題のある生徒である。

### 3 検証計画

検証の観点	検証方法
<b>手立て1 3-STEP Writing</b> 英作文完成までの学習過程を三つのSTEPに細分化、段階化して、各STEPの学習課題を提示したことは、生徒が見通しをもって活動に取り組むことに有効であったか。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・各STEP前後の変容</li> <li>STEP 1：デジタルワークシート上の付箋の枚数と内容の変化</li> <li>STEP 2：表現の穴の変容</li> <li>STEP 3：デジタルワークシートの編集履歴</li> <li>・振り返りシートの記述</li> </ul>
<b>手立て2 ピア・ラーニング</b> 各STEPにピア・ラーニングによって協働的に学ぶ場を設定したことは、生徒が相手意識をもって、より適切な内容と表現で書くことに有効であったか。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・試しの活動と単元終末の活動の語数の変化</li> <li>・「表現の穴」の変容</li> <li>・振り返りシートの記述</li> <li>・アンケート</li> <li>・インタビュー</li> </ul>

### 4 指導計画

授業実践の指導計画を以下に示す。が研究上の手立てに係る部分である（各単位時間における詳細は別添資料参照）。

過程	時間	<input checked="" type="checkbox"/> ねらい <input type="checkbox"/> 学習活動 <input checked="" type="checkbox"/> ICT活用に関する事項	◆評価項目<方法> [記]：記録に残す評価
		<input checked="" type="checkbox"/> 単元の学習課題を踏まえた手紙を書く試しの活動を通して、単元終末の言語活動における目的や場面、状況等を捉え、単元の学習の見通しをもつことができるようにする。	◆試しの活動を通して、どのような学習が必要か単元の見通しをもつことができている。

つかむ	1	<input type="checkbox"/> A L T のプレゼンテーションを聞いて単元の課題をつかみ、試しの活動を行う。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 5px;"> <p><b>[単元の学習課題]</b>  勉強を頑張る目的をマラウイ共和国の学生と共有できるように、事実や自分の考え、気持ちなどを整理し、簡単な語句や文を用いてまとまりのある内容で手紙を書こう。</p> </div>	<デジタルワークシート、 振り返りシート>
	2	<p>■手紙に書こうとしている内容を口頭で伝え合う活動を通して、言いたいのに英語で言えない表現があることに気づき、言語面の学習の見通しをより明確にできるようにする。</p> <input type="checkbox"/> Writing STEP 1 課題の認識 1-1 伝えたい思いを広げる・深める 手紙を書く目的や場面、状況等を再確認して、デジタルワークシートの付箋の内容を、追加、具体化、修正する必要があるか検討する。 ★	<p>◆英語で伝えられない表現の穴があることに気づき、言語面の学習の見通しをもっている。  &lt;デジタルワークシート、  振り返りシート&gt;</p>
追究する	3	<p>■関係代名詞（目的格）やその省略が用いられた文章を読んで内容を理解することを通して、Boyan が行動を起こしたことに対する自分の意見や考えを、理由と共に Boyan 宛てのメッセージとして書くことができるようにする。</p> <input type="checkbox"/> 教科書本文の概要を理解し、Boyan が行動を起こしたことに対する自分の意見や考えを、理由と共に短い文章で書く。 ★	<p>◆自分の意見や考えを、理由と共に Boyan に宛てて書いている。  &lt;デジタルワークシート&gt;</p>
	4	<p>■関係代名詞（目的格）が用いられたまとまりのある文章を読んで、新大陸発見に対する自分の意見や考えを、理由とともに Boyan 宛てのメッセージとして書くことができるようにする。</p> <input type="checkbox"/> 教科書本文の概要を理解し、海洋プラスチックごみでできた大陸に対する自分の意見や考えを、理由と共に短い文章で書く。 ★	<p>◆太平洋ゴミベルト発見に対する自分の思いを、理由と共に Boyan に宛てて書いている。  &lt;デジタルワークシート&gt;</p>
	5	<p>■関係代名詞（目的格）が用いられたまとまりのある文章を読んで概要をつかみ、海洋プラスチックごみに対する自分の意見や考えを、具体例と共に Boyan 宛てのメッセージとして書くことができるようにする。</p> <input type="checkbox"/> 教科書本文の概要を理解し、プラスチックごみ問題を解決するための自分の意見を、具体例と共に短い文章で書く。 ★	<p>◆海洋プラスチックごみに対する自分の意見を、自分にできる改善策と共に Boyan 宛てのメッセージとして書いている。  &lt;デジタルワークシート&gt;</p>
	6	<p>■関係代名詞（目的格）を正しく用いて、マラウイ共和国に送る文房具を一文で説明できるようにする。</p> <input type="checkbox"/> 関係代名詞（目的格）の働きを理解し、文房具のことを一文で書く。 ★	<p>◆マラウイ共和国に送る文房具のことを、関係代名詞（目的格）を正しく用いて一文で詳しく説明している。  &lt;デジタルワークシート&gt;</p>

まとめる	7	<p>■ Writing STEP 1-2 で気付いた表現の穴を、英語で表現できるようにする。</p> <p>□ Writing STEP 2 文字化</p> <p>曖昧で複雑な日本語を具体的で簡単な日本語に言い換えたり、友達と知識を補い合いながら既習表現に結び付けたりして、表現の穴を英語で表現する。</p>	<p>◆ 自分では英語で表現できなかった部分を、既習表現を駆使して表現している。</p> <p>&lt;デジタルワークシート、対話分析（知）&gt;</p>
	8	<p>■ 「書くこと」の言語活動における学習経験を想起させ、伝える順序を再考したり、つなぎ言葉を活用したりして手紙を書くことができるようにする。</p> <p>□ Writing STEP 3 再構築</p> <p>3-1 伝える順序の再考</p> <p>これまで書き溜めてきた英文を、読み手にとって分かりやすい構成になるように伝える順序を再考し、文の順番を確定する。</p> <p>3-2 つなぎ言葉の活用</p> <p>文と文の関係が読み手にとって明確になるようにつなぎ言葉を活用し、内容にまとまりのある手紙を書く。</p>	<p>◆ 「書くこと」の言語活動における学習経験に基づいて手紙を再構築している。</p> <p>&lt;デジタルワークシート（知、思、態）&gt; [記]</p>

## VI 研究の結果と考察

### 1 研究上の手立てに係る授業の実際と抽出生徒Aの英作文の変容

#### (1) 単元の課題

本単元の「つかむ」過程で、ALTから母国であるマラウィ共和国の学校の現状について聞き、生徒と単元の課題を設定した。ALTの母国では、公用語の英語の学力が就職に大きく影響するために英語を勉強する必要があるものの、学用品が不足して学習がままならない現状がある。これを知った生徒たちは、ALTの母国の学生のために何かできることはないか話し合った（図3）。そして、自分たちも相手も勉強を頑張っている共通点に気づき、手紙と学用品を送ることに決めた。単元の課題は「勉強を頑張る目的をマラウィ共和国の学生と共有できるように、事実や自分の考え、気持ちなどを整理し、簡単な語句や文を用いてまとまりのある内容で手紙を書こう」となった。



図3 ALTの母国の学生のために何ができるか話し合っている生徒

#### (2) STEP 1 課題の認識

手紙で相手に伝えたい思いを広げたり深めたりさせるために三人組によるピア・ラーニングで互いのデジタルワークシートを見合い、対話を通して検討する活動を行った。抽出生徒Aは、友達から「将来のために勉強を頑張っていると書いてあるから、将来の夢が何か知りたい」という助言をもらい、自己紹介に書いてあった I live in Japan. を削除して自分の将来の夢を具体的に書いた。

**項目1 自己紹介**

Hello.nice to me  
you.My name is  
....

自分の夢は子供と  
関わる仕事をする  
こと。

自分は子供と  
関わる仕事が  
大好き！

**項目2 送るものについて**

勉強グッズ

家に余っていた  
もの

**項目3 勉強を頑張る目的**

自分は将来の  
夢を叶えるた  
めに学校で勉  
強をしている

この鉛筆とノート  
を使ってたくさん  
勉強して将来の夢  
に向かって頑張っ  
てほしい。

自分も将来の  
夢を叶えるた  
めに頑張るから、お互い頑  
張るー！

図4 STEP 1 生徒Aのデジタルワークシート

た（前ページ図4太枠）。その後、友達を相手にして付箋の内容を英語で表現できるか口頭で確認させた。表現できなかつたり伝わらなかつたりしたデジタルワークシート上の付箋の色を赤色に変えるように指示し、表現の穴として可視化して言語面の課題を認識できるようにした（前ページ図4二重枠）。

### (3) STEP 2 文字化

表現の穴を英語で表現できるようにするために三人組のピア・ラーニングを行った。文字化を行うために日本語の言い換えと既習表現の活用という二つの視点を示して、全員に「社会に貢献する」という内容を英語で表現する例に取り寄せた。生徒たちは「社会のために手助けをする」と日本語を言い換えて既習表現の help に結び付けた。抽出生徒Aは「夢は子供と関わる仕事をする」という表現の穴に対して班員から質問を受け、具体的な職業名に言い換えて表現した（表1下線部）。「夢を叶える」については既習表現を覚えていた班員1によって、I study hard to make my dream come true.と英語で書くことができた（表1破線部）。学習後、班員1に make を活用する助言をした理由を尋ねたところ、1学期に学習した使役動詞としての make の用法を根拠としたことを説明した。このようにして抽出生徒Aは既習表現を駆使して表現の穴を文字化することができた。英語で表現できた表現の穴は、デジタルワークシート上の付箋の色を元の色に戻すように指示した（図5二重枠）。

### (4) STEP 3 再構築

生徒と学習課題を共有できるように、矢印や番号を用いて書く順番を明記している例を示してから活動を行わせた。抽出生徒Aは、勉強を頑張る目的の内容として書いていた I study hard at school to make my dream come true.の文が自分の夢に関連する文なので、自己紹介の段落にある I want to be a nursery school teacher.の直後に移動させた方が読み手にとって分かりやすいと助言を受けて文を並べ替えた。その際、I want to be a nursery school teacher.の文を My dream is to be a nursery school teacher.と、主語を変化させていたのでその理由を尋ねたところ、連続する三文の始まりが全て I であったことを理由として挙げた。主語が同じ文章が

表1 生徒Aがいる班の談話記録

生徒A：「子供と関わる仕事」を英語で何て言えばよいと思う？
班員1：子供と関わる仕事って、何？
生徒A： <u>保育士か幼稚園の先生</u>
班員2： <u>そのまま書けばいいんじゃない？</u>
生徒A：I want to be a nursery school teacher.
生徒A： <u>「夢を叶える」は？</u>
班員1： <u>your dream will come true</u> を2年で習ったよ
生徒A：じゃあ、my dream come trueかな
班員1： <u>その前にmakeを入れるといいよ</u>
班員2： <u>to make my dream come true</u> になるね

**項目1 自己紹介**

Hello.nice to meet you.My name is <input type="text"/>	I really like to take care of children.	I want to be a nursery school teacher.
--	---	--

**項目2 送るものについて**

My Malawian teachers taught us that you studied hard	
I decided to support you.	I'll give you stationery which I don't use now.

**項目3 勉強を頑張る目的**

I study hard at school to make my dream come true.	I hope you study using the stationery I send you. I hope your dream come true too.	I will do my best to make my dream come true. So please try your best to make your dream come true.
--	--	---

図5 STEP 2 生徒Aのデジタルワークシート

Hello.nice to meet you.My name is

I really like to take care of children.

So my dream is to be a nursery school teacher.

I study hard at school to make my dream come true.

My Malawian teachers taught us that you studied hard too

Then I decided to support you.

I'll give you stationery which I don't use now.

I hope you to study using the stationery I send you. Also, I hope your dream come true.

I will do my best to make my dream come true. So please try your best to make your dream come true.

図6 STEP 3 生徒Aのデジタルワークシート

続くと読み手は単調な文章に感じてしまうという「書くこと」の言語活動における学習経験に基づいて手紙を再構築する姿が見られた（前ページ図6太枠）。その後、つなぎ言葉を活用してまとまりのある手紙に仕上げさせた。つなぎ言葉は生徒が自分の手紙の内容に合わせて選択できるように、..., because .... や、Also, Then, In addition, (Even) Though, since, In my opinion, Based on my experienceなどを提示した。抽出生徒Aは、I hope you to study using stationery I send you. と I want you to make your dream come true. が二文とも相手に対する思いであることから、Also を加えてまとまりをもたせて手紙を完成させた。（前ページ図6下線部、図7）。

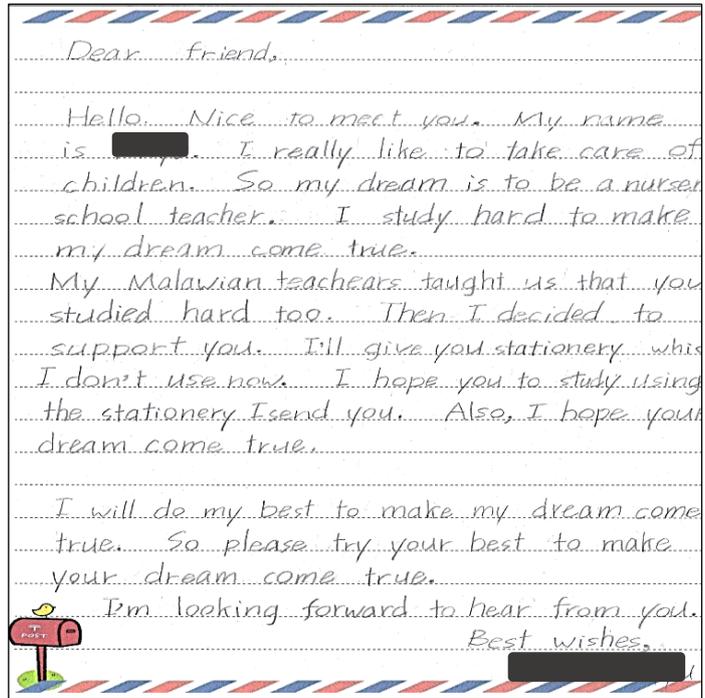


図7 完成した生徒Aの手紙

## 2 検証の観点1に係る結果と考察

英作文完成までの学習過程を三つのSTEPに細分化、段階化して、各STEPの学習課題を提示したことは、生徒が見通しをもって活動に取り組むことに有効であったか。

### (1) 結果と分析

#### ① STEP 1 課題の認識

STEP 1 学習前は平均3枚だったデジタルワークシート上の付箋の枚数が、学習後は6枚に増えた。追加された付箋には、将来就きたい職業や仕事の内容を具体的に記入していたり、手紙と一緒に送る学用品や高校進学について詳しく説明する内容が書かれていたりしていた。このことから、手紙を書く目的や場面、状況等を共有したことで、生徒は事実や自分の思いを整理して相手に伝わりやすい手紙にするための内容面の学習の見通しをもつことができたことが分かった。言語面では、新出言語材料に関わる内容や「将来、自分が就きたい職業に就いて、社会に貢献したい」などのように日本語が複雑で抽象的な部分が英語で表現できないことに気付いた生徒が多かった。振り返りシートには「手紙で自分の思いが伝わるようにしたい」「興味をもってもらえるような内容の手紙にしたい」など内容面に関する記述や、「日本語のまま残っている付箋の内容を英語に直すことを頑張りたい」など、言語面に関する記述が見られた。これらのことから、生徒は内容面と言語面で単元の学習の見通しをもつことができたことが分かった（表2）。

表2 STEP 1 学習後の振り返りシートの記述

- ・自分の思いが伝わる文章とわかりやすい英文構成にしたい
- ・興味をもってもらえるような内容の手紙を書けるようにしたい
- ・勉強を頑張る目的に追加した付箋の日本語を英語にして文に追加することを頑張りたい
- ・日本語から英語に直す表現力を頑張りたい
- ・日本語のまま残っている付箋の内容を英語に直すことを頑張りたい
- ・たくさんの文法を使いたい
- ・英単語を調べずに文を作れるようにする
- ・ネイティブの人たちにも伝わるように文を書きたい

#### ② STEP 2 文字化

表現の穴を可視化してあるため、生徒はどの部分で困っているのかを友達に伝えてスムーズにピア・ラーニングを始めることができ、ほぼ全員の生徒が表現の穴を文字化できた。授業後の生徒

の振り返りシートには「最初は単語が分からなくて難しかったけど、日本語を簡単にすると考えれば意外にできた」「日本語をより具体的にすれば英語で表現できるようになった」「自分は習った文法を使いたかったので、どうすればよいのかを友達と話し合った結果、相手に伝わる文になった」などの記述が見られた(表3)。また、活動中に多くの班から喜びや驚きの歓声が起こったことから、自分たちの力で既習表現を駆使して英語で表現できたことに対する達成感を感じることができたと考えられる。

表3 STEP2 学習後の振り返りシートの記

- ・最初は単語が分からなくて難しかったけど、日本語を簡単にすると考えれば意外にできた
- ・日本語をより具体的にすれば英語で表現できるようになった
- ・習った文法を使うにはどうすればよいのかを友達と話し合ったりしてみた結果、相手に伝わる文になった
- ・自分だけでは表現できないところを、友達と話し合いながら英語で表現できた
- ・長い日本語の文が英語で書けなくて困っていたが、友達と話し合いながら書くことで分かりやすい表現にすることができた

### ③ STEP3 再構築

約70%の生徒が文の順番を入れ替えて段落構成を行い、読み手にとって分かりやすい手紙になるように工夫した。その内の多くの生徒は勉強を頑張る目的の付箋を自己紹介の後に移動させていて、「相手にとって分かりやすくなるように文の順番を入れ替えることができた」「話の移り変わりがスムーズになって、手紙を読む人は読みやすくなったと思う」などと振り返っていた。文の順番を入れ替えなかった生徒に理由を聞いてみたところ、「STEP1のときから読み手にとって分かりやすい構成を考えながら付箋に記入していた」「考えた結果、変える必要がないと感じたし、友達もそのままでもよいという意見だった」という理由があった。このように、一部の生徒は文の構成を考えながら付箋を配置しているものの、STEPに文章構成を再考する学習活動を位置付けることで、全ての生徒が読み手を意識してより適切な内容にするための視点をもつことができたことが分かった。また73%の生徒がつなぎ言葉を適切に追加して、「文につながりができて、より分かりやすい手紙にできた」「つなぎ言葉を入れたことで英文の流れがよくなって、日頃から英語を使っている相手に、自信をもって読んでもらえる手紙になった」などと振り返る記述が見られた。文と文の関連性を明らかにすることで相手にとって分かりやすい手紙になったことを自覚できた様子が見られた。

#### (2) 考察

実践後のアンケートで生徒に3-STEP Writingについて感想を求めたところ、「段階を踏んでいて取り組みやすかった」「自分の考えを具体的に伝えることができた」「英作文をするときに、どのような手順だと書きやすいか知ることができた」などの意見があった。見通しをもって学習に取り組んだことで自分自身の変容を自覚することができ、達成感を得ることができたと考えられる。また、実践を参観した教諭からは「今までは英作文の課題を出すと、生徒は思い付いた内容から書き始めて、単語のつづりや文法の正確性を気にしていた。今回の活動では、生徒が自分の思いや考えを読み手に分かりやすく伝えるために楽しそうに取り組んでいて驚いた。参観しながら、どの生徒がどのような支援を必要としているかがよく分かった」という感想が得られた。

以上のことから、「書くこと」における学習過程を三つのSTEPに細分化、段階化し、各STEPにおいて学習課題を明確にしたことは、生徒が見通しをもって活動に取り組むことに有効であったと考える。

## 2 検証の観点2に係る結果と考察

各STEPにピア・ラーニングによって協働的に学ぶ場を設定したことは、生徒が相手意識をもって、より適切な内容と表現で書くことに有効であったか。

## (1) 結果と分析

単元の導入時における試しの活動と、STEP 1 学習後、単元終末の活動におけるそれぞれの語数を比較したところ、全員の生徒に語数の増加が見られた。図 8 に 3 名の生徒の語数の変化を示す。生徒 A、B は STEP 1 学習後の語数が 3 倍近くに、生徒 C は 6 倍の語数になっている。実践後のアンケートで、「『看護師になりたい』と書いていたら友達に理由を聞かれた。手紙の相手は自分のことを知らないから、理由も加えたほうが分かりやすいと思った」などの回答が得られた。STEP 1 学習後の振り返りシートには「他の人が見てどのように感じるのか知ることができたので、付箋を追加した」「自分だけでは考えつかなかったことを友達と話すことで、考えが深まって伝えたい内容が増えた」などの記述が見られた。これらの結果から、自分の思いや考えを文章で読み手に伝える活動において、読み手視点からの助言をピア・ラーニングで得たことで相手意識が高まり、より適切な内容にすることができたと考えられる。

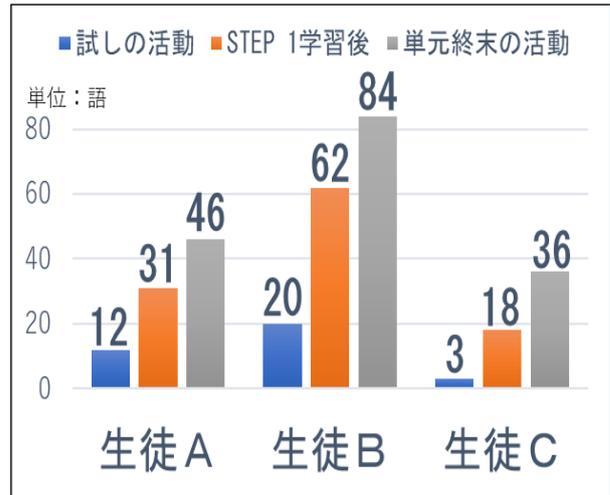


図 8 生徒 A、B、C の総語数の変化

言語面では、友達から言い換えの案を得たり伝えたいことを整理できたりした生徒が 32 人、既習表現を教えてもらえたり訂正してもらえたりした生徒が 10 人、読み手に伝わりづらい表現の指摘や読み手がどのように感じるかという助言を得られた生徒が 10 人いたことが STEP 2 の振り返りシートの記述から分かった。具体的には、試しの活動で「私はお金のために勉強を頑張っている」と書こうとしていた生徒の多くが、STEP 1 で「読み手に誤解されやすい」と助言を受けて「私は勉強して就職して、お金を稼ぐために勉強を頑張っている」のように内容を具体的にした。さらに、STEP 2 で「お金を稼ぐ」を表現するために日本語を言い換える案を出し合い、「仕事をして収入を作る」として *make money* と表現したり、「お金をもらう」と言い換えて *get money* と表現したりしていた。STEP 3 では、友達が *because* を文頭で用いて文を書いていることに気付いた生徒が助言をして、節に書き変えた様子が見られた。また、友達の英文を見る機会が得られたことで、生徒は友達の表現の工夫を参考にして自分の手紙に取り入れていることが分かった。疑問文を用いて読み手を話に引き込む工夫や、*Please use the pens which I give you.* という文を *I hope you'll like the pens which I give you.* と表現して自分の思いが読み手に伝わるようにしている工夫など、「書くこと」の言語活動における学習経験に基づいている表現を取り入れていた。同じ言語活動に取り組む友達とピア・ラーニングをしたことで、生徒は自分の伝えたい思いをより適切な内容と表現で書くことができたことが分かる。

## (2) 考察

「自分の思いや考えを英語で書いて伝えるとき、それぞれの項目についてどれくらい気を付けていますか」という質問を実践前後のアンケートで行ったところ、「読み手の理解を想像すること」「段落構成を工夫すること」「接続詞で文と文のつながりを明確にすること」という相手意識に関わる三つの項目で、「とても気を付けている」と回答した生徒の割合が増加した（図 9）。このことから、ピア・ラーニングを通して友達と意見交流したり読み手視点からの助言をもらったりすることで、生徒の相手意識

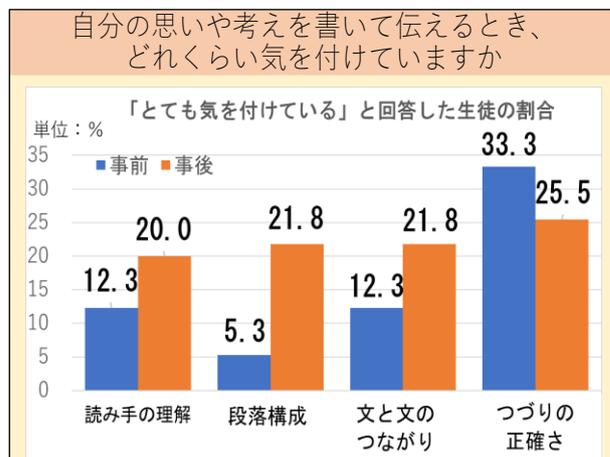


図 9 「書くこと」のアンケート結果

が高まったと考える。また、実践後は全ての項目の数値の差が縮まってバランスがよくなっていることから、実践前はつづりや文法の正確性に集中していた生徒の意識が、自分の思いを読み手に伝えるための表現の適切さや段落構成などにも向けられたことが分かる。よって、手紙を個別に書く活動においてピア・ラーニングによって協働的に学ぶ場を設定したことは、生徒が相手意識をもって、より適切な内容と表現で書くことに有効であったと考える。

一方、実践後のアンケートで内容や表現を変更しなかったと回答した生徒の活動の様子をビデオで確認してみると、日本語自体を言い換える活動で話合いが活発にならず、ピア・ラーニングが円滑に進んでいなかったことが分かった。このような生徒の中にはコミュニケーションに支障をきたすような誤りを含んだまま手紙を仕上げってしまった生徒もいた。このことから、ピア・ラーニングの進め方や形態は改善の余地があると考えられる。

### 3 研究の考察

実践後に 3-STEP Writing を今後の自由英作文にも役立てられそうか四件法で聞いたところ、90%の生徒が肯定的な回答をした（図10）。3-STEP Writing で各 STEP の達成目標となる学習課題が明確になったことで、完成までの見通しをもって英作文に取り組めたことが経験となって蓄積し、「書くこと」の学習活動に対する生徒自身の今後の展望につながっていくことが期待できる。また、自由英作文が得意かどうか質問した実践前後のアンケート結果を比較したところ、「非常に得意」「得意」と答えた生徒の割合が 23.6%から 41.8%に増加した（図11）。学習前はつづりや文法の正確さに自信がなく、伝えたい思いを英語で表現できないと困っていた生徒たちが、他者からの視点で内容を検討したり、言い換えの案を得たりするピア・ラーニングを行った結果、自分の力で英作文が書けたという達成感と自信をもてたと考えられる。このような結果が得られたのは、生徒にとって本研究の実践が「書くこと」の言語活動における学習経験として新たに蓄積され、「書けること」が増えた実感につながったためであると考えられる。

これらのことから、本研究で行った二つの手立ては「書けること」を駆使して伝えたい思いを表現する生徒の育成に有効であったと考える。

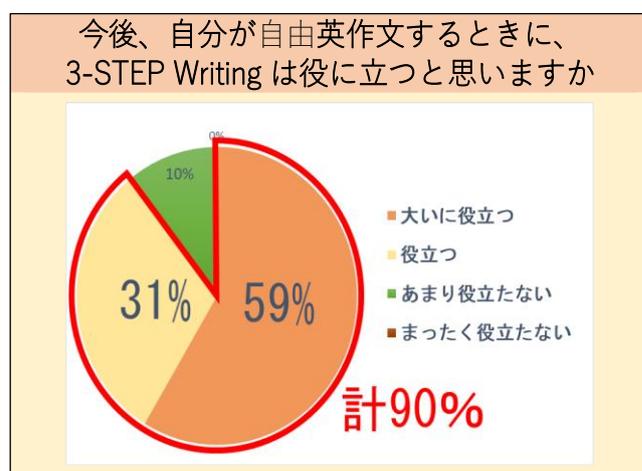


図10 3-STEP Writing に関するアンケート結果

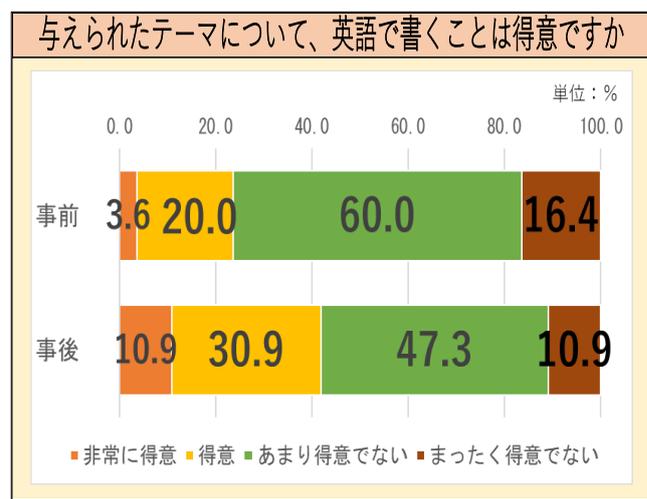


図11 「書くこと」の言語活動のアンケート結果

## VII 研究のまとめ

### 1 成果

- 英作文完成までの学習過程を細分化、段階化して、各 STEP における学習課題を明確にして活動に取り組んだことで、教師の指導の手順と視点が明確になり、一貫性のある指導と評価を行

うことができた。また、活動の前にゴールを示したことで、生徒にとっても達成目標が明確になり、見通しをもたせることができた。

- 各 STEP にピア・ラーニングによって協働的に学ぶ場を設定したことで、「書くこと」も読み手とのコミュニケーションであると実感して、英作文が言語面と内容面の両面で充実し、より適切な内容と表現で書くことができた。

## 2 課題

- 完成した英作文には単語のつづりや文法上の誤りが散見された。コモンエラーとして取り上げて全体に投げかけて生徒自身で気づき、ピア・ラーニングで修正するように導くような活動と指導の繰り返しが必要である。
- 「書くこと」の言語活動における学習経験を生徒が自ら意識的に活用できる指導の工夫が必要である。そのためには「書くこと」の言語活動における学習経験を生徒に想起させながら指導し、生徒の英作文が相手意識をもった内容や表現になったときに肯定的なフィードバックを与えなければならない。そうすることで生徒が達成感を感じ、「書けること」を蓄積できるようにすると更に効果的であると考えられる。
- ピア・ラーニングによる学びの質を確保する必要がある。生徒の人間関係は話合いの活性化に影響し、グループ間の学力のバランスは、学力の向上に影響すると考えられる。班を越えて学び合うように教師から働きかけたり、学びの視点やヒントを与えたり、意図的班編成をしたりするなどの改善策が考えられる。

## VIII 提言

上記の成果が得られた本研究の2つの手立ては、どちらか一方ずつでも指導に取り入れることが可能である。実践してみることで、生徒が自分の力で英作文を書き進めていく姿を見ることができ、指導の手順と視点を明確にして指導することで、生徒の力を信じて委ねる場面を単元に効果的に位置付けることができる。「書くこと」の領域で、内容面と言語面の両面から教師が教えていた指導を見直し、生徒に委ねて考えさせ、教師はそれをサポートして見守る指導を行っていきたい。

### <引用文献>

- 1) 望月道子 (2013) 『ピア・ラーニングに対する学習者の認識と学びのプロセス』

### <参考文献>

- ・文部科学省 (2019) 『中学校学習指導要領解説外国語編』
- ・文部科学省 (2020) 『高等学校学習指導要領解説外国語編英語編』
- ・国立教育政策研究所 『「指導と評価の一体化」のための学習指導に関する参考資料 中学校外国語』
- ・群馬県教育委員会 (2019) 『はばたく群馬の指導プランⅡ』
- ・池田玲子・舘岡洋子 (2022) 『ピア・ラーニング入門 改訂版 創造的な学びのデザインのために』 ひつじ書房

### <担当指導主事>

柳川 祥恵 鈴木 崇元